

二酸化炭素の再生・利用が可能になるという点から 上記の新技術を一石二鳥の名案として紹介しているが 著者らには それは必ずしも当てていないように思える。なぜなら このような多種・多様の不純物を含む——むしろその方が多い——含二酸化炭素ガスを精製して 純度の高い二酸化炭素とすることは 決して容易なことではないからである。幸いわが国は二酸化炭素資源に恵まれているのだから このような原子力研究所の研究に平行して 二酸化炭素資源の調査・研究を実施すべきではなかろうか。地熱に関する調査・研究が昭和49年度から軌道にのったことは喜ばしいが 地熱地域と二酸化炭素発生地域の多くは裏・表の関係にあるのだから 二酸化炭素資源の調査・研究は 地熱のそれと平行して行うのが効果的であるのだが これについては 当所の経常研究の1つとして 細々ながら実施されているに過ぎない。わが国の科学技術行政の欠陥がここにも見られるといってしまうとそれまでであるが 二酸化炭素問題がその是正のきっかけとなれば幸いである。

あとがき

本稿は昨秋実施した現地調査の成果を中心にまとめたものである。現地調査に際してお世話になった函館市水道局温泉事業課には 本稿のとりまとめに当たってもこまかい点について いろいろ教えていただいた。また 前函館市長吉谷一次氏は 創業当時の事情についてメモの写しを送って下さった。摺筆に当って 吉谷一

次氏 ならびに温泉事業課の笹森 章課長 同課の野中正則課長補佐兼湯川温泉係長はじめ課員各位に 心から感謝の意を表する次第である。

(筆者らは 石油課長・化学課)

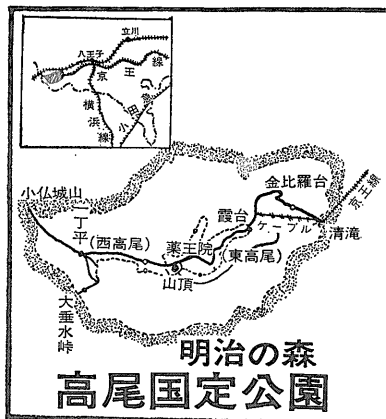
参考文献

福田 理 1973 5.22 磯部産ガス地：日本鉱床誌「関東地方」450～460頁
 福田 理・永田松三 1974 温泉と炭酸ガスも使いよう：科学朝日 34巻 5号 109～114頁
 福富孝治ほか4名 1962 湯の川温泉 谷地頭温泉の調査：環境衛生に関する報告 19号 1～18頁 北海道衛生部
 福富忠男 1947 湯ノ川温泉とその地質：函館市役所
 長谷川 潔・鈴木 守 1964 5万分の1地質図幅「五稜郭」および同説明書：北海道立地下資源調査所
 石川俊男ほか2名 1962 湯の川温泉および谷地頭温泉地質調査報告：環境衛生に関する報告 1962 19～41頁 北海道衛生部
 加藤錦房 1961 II-12 炭酸ガス工業：数森敏郎編「高圧ガス技術便覧」272～307頁
 牧口利貞・佐藤昌介 1960 ガス型鑄物：日刊工業新聞社
 太秦康光・那須義和 1960 温泉中水の塩素 臭素 沃素について：日本化学雑誌 81巻 405～413頁
 太秦康光ほか2名 1959 a 北海道諸温泉の化学成分とその起原についての問題：日本化学雑誌 80巻 856～859頁
 太秦康光ほか2名 1959 b 北海道西南部の諸温泉：同上 859～862頁
 太秦康光ほか2名 1960 温泉中のストロンチウムについて：日本化学雑誌 81巻 413～418頁

地学と切手



明治の森
高尾国定公園
堀内 恵彦



東京の西郊 八王子市の西端にあり 薬王院有喜寺を中心とする 高尾山一帯 770 ヘクタールが地域で 有喜寺は行基菩薩の開山といわれ 俊源大徳の中興以来 修験道の遺風が残り 歴史と伝統のあるところで 付近は寺領として 自然が保持されたもので 東京都心から 1時間たらずの距離にある。レクリエーションの適地で また 珍しいこん虫・動物・鳥類が多く生息し 植物も多くの種類が殖生している。昭和42年12月11日付

で 明治百年を記念して公園指定が行なわれ 昭和48年 3月12日「高尾山の山並み」を画く 20円切手が発行された。